## 2003 年度 委員会活動成果報告

(2004年3月22日作成)

		(2001   07) 22 11 11 11 11 11
委員会名	流体数値計算による風環境評価ガイドライン作成WG	主 査 名:持田 灯
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (空気環境小委員会)	委員長名:鉾井修一
設 置 期 間	2003年 4月 ~	2005年 3月
設 置 目 的 各年度活動計画	・本WGは、最近の高層建物周辺の風環境(ビルの増加を踏まえ、数値計算技術を利用した風環範囲などを明らかにする目的で設置された。 ・本年度は、これまでの活動成果を取りまとめ、 測を行う際の留意点をガイドブック(ガイドラ容の検討、執筆作業を進めることを目標として	環境の適切な予測方法、その適用 数値計算手法により風環境の予 ライン)として公表するための内
委員構成 (委員名(所属))	別紙	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2003 年度予算	100,000 円	

項目	自己評価	
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003年 4月14日 第1回WG(建築会館) 参加人数10名 2003年 6月10日 第2回WG(建築会館) 参加人数8名 2003年 7月29日 第3回WG(建築会館) 参加人数12名 2003年 9月29日 第4回WG(東大生研) 参加人数13名 2003年10月29日 第5回WG(建築会館) 参加人数11名 2003年12月18日 第6回WG(建築会館) 参加人数11名 2004年 2月13日 第7回WG(建築会館) 参加人数11名 2004年 3月13日 第8回WG(建築会館) 参加人数8名	
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) ・ これまでに実施された行われた各種のベンチマークテストの結果、成果報告シンポジウムでの反響・意見等を再検討し、風環境予測に数値計算手法を利用するための方法、留意点をまとめたガイドラインの原案作りを進めるとともに、学会からの出版へ向けての準備作業を行ってきた。 ・ また新たに実施したベンチマークテストの結果等については、本会技術報告集、論文報告集、関連学会シンポジウム等で発表した。	
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) ・本年度の活動によって、風環境予測に数値計算手法を利用するための具体的なガイドラインの項目や内容について、ほぼ委員会の合意を得ることができた。よって本年度の活動目標は概ね達成することができたと考える。	
その他評価すべき事項	・当該分野において世界的に著名なカナダの Concordia 大学 Stahopoulos 教授を第8回WGに招いて、活動内容を報告し、意見交換を行った。その際にも、本WGの活動状況に関して高い評価を受けた。・WG活動の一環として得られた各種の研究成果は、本会技術報告集2編、論文集1編、英文論文集2編として公表された(一部は採用決定)。	

## 委員名簿

主査:持田 灯(東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻)

幹事:富永禎秀(新潟工科大学工学部建築学科)

委員:石田義洋(鹿島建設(株)情報システム部)

石原 孟(東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻)

上原 清(国立環境研究所 地域環境グループ)

張本和芳(大成建設(株)技術センター建築技術研究所)

大岡龍三(東京大学生産技術研究所)

片岡浩人((株)大林組 技術研究所数値・流体研究室)

倉渕 隆(東京理科大学工学部建築学科)

小林信行(東京工芸大学工学部建築学科)

土屋直也(㈱)竹中工務店 技術研究所情報研究部門)

野々村善民((株)フジタ 技術センター)

日比一喜(清水建設(株)技術研究所)

村上周三(慶應義塾大学理工学部システムデザイン学科)

義江龍一郎(前田建設工業(株)技術研究所)

野津 剛(清水建設(株)技術研究所,専門委員)

吉川 優(大成建設(株)技術センター建築技術研究所,専門委員)

白澤多一(東北大学大学院,専門委員)

嵐口晃宏(東京理科大学工学部建築学科,専門委員)

佐藤大樹(慶應義塾大学大学院,専門委員)

Ted Stathopolous (Concordia University,海外協力者)